

## この1枚



東天狗岳と西天狗岳に向かう

### 山行報告

#### ★櫛形山(11月10日)

参加者 会員(障害者3名、健常者9名)

NHKでは、12週間連続で東京で雨の降らなかった日曜日がなかったと伝えている。しかし、今日はすばらしい天気になりそうだ。特急かいじの車窓からも雪を抱いた富士山がくっきりと見えている。

甲府駅から予約したタクシーで池の茶屋林道終点に向かう。次第に急になり、ヘアピンカ

ーブの続く車道を、私たちが乗った先頭のタクシーはゆっくり登っていく。タクシーさんの年齢は74歳とのこと。以前は65歳が定年だったが、若い人が入ってこないため、定年を先送りしなければ、運転手さんの確保ができず、今では75歳が定年とのこと。介護業界も人材確保が厳しいが、タクシー業界も非常に厳しいようだ。

林道の終点が近づく頃、タクシーの車窓に白峰三山が飛び込んできた。もうこの景色を見ただけで十分満足したと思えるほどのすばらしい風景だった。その余韻を残したまま、林道の

終点でタクシーを降りる。これから見られる風景に期待しつつ、声出しをして出発する。シカの食害でアヤメが激減したこともあり、何度か柵を通過していく。周囲のカラマツがきれいだった。



富士山を望む

緩やかな斜面を一登りすると、今度は富士山がよく見える。今日は、富士山と北岳の国内1位と2位の標高を持つ山を楽しめながら歩けそうだった。



南アルプス南部が見えた

富士山が見えたところからは、防火帯のように切り開かれたところを緩やかに登る。少し登って振り返ると、南アルプス南部の悪沢岳が見えるようになる。登っているときは、塩見岳だと思っていたが、どうも白峰三山と離れすぎているように思っていた。帰ってカシ米尔で調べてみると、悪沢岳と赤石岳と聖岳が見えることを知る。塩見岳は、手前の尾根の上に山頂がほんの少し見えている程度のようなのだ。みなさんには、塩見岳だと間違った情報を伝えてしまい、申し訳なかった。

登り着いたところが奥仙重。昭文社等の地図では、ここが櫛形山となっている。ただ、隣に

見えるピークはどうみてもここより高く見える。奥仙重から少し下り、登り返すと、そこに櫛形山山頂の標識がある。詳しいことは分からないが、とにかくここで集合写真を撮る。ここも展望は良くないので、昼食は展望の良い裸山で撮ることにして、すぐに出発する。

木々のないテニスコートが作れるほどの草原状の広場を過ぎたと思うと、苔むした林床が広がったりする。とても変化に富んでいる山だ。ダケカンバやカラマツの巨木もあり、この付近は原生林なのだと思う。

アヤメの群生地なのだろうか、柵に囲まれた所に着く。柵には、コヒョウモンモドキの写真と説明書きが付けられている。なかなか見ることのできない蝶のようだ。



裸山からの白峰三山

柵の所から登っていくと裸山に到着する。大勢の人たちが休憩していた。山頂からは、期待通り、白峰三山がよく見える。その右には鳳凰三山が見える。鳳凰三山の左奥にある山は、甲斐駒とのこと。見る方が違うので、形もかな



裸山山頂にて

り違って見えていたので、甲斐駒とは思えな

った。

山頂でゆっくり昼食を摂ってから下山にかかる。アヤメ平休憩舎の手前には多くのマイツルソウが実を付けていた。アヤメ平は少し前までシカの食害で全滅に近かったようだが、ここ数年、保護活動の成果が出てきて、年々アヤメの数が増えているようだ。保護活動をする方たち感謝したい。また、アヤメの咲く頃に訪れたいものだ。



北尾根登山道を下る

ここからは北尾根登山道を下っていく。滑り

やすいところもあり、2回ほど滑って転んでしまった。14時30分頃、タクシー会社に電話を入れ、展望台に15時30分頃来てほしいことを伝える。展望台に着くと、タクシーはすでに待っていてくれた。朝、私たちを下ろしてからすぐにここに来て、ワックスがけなどをして待っていてくれたらしい。とてもありがたい。展望台からは雲がなくなった富士山が端正な姿を見せてくれている。甲府の町や金峰山方面もよく見える。左手にはハケ岳も見えていた。

今回は晩秋であり、アヤメなどは見られませんでした。その代わりすばらしい展望を楽しめました。12週ぶりの好天にも感謝しつつ、甲府駅へと向かった。 記：網干

### コースタイム

池の茶屋林道終点(10:45)…櫛形山(奥仙重)  
(11:25-11:35)…裸山(12:40-13:20)  
…アヤメ平(13:50-13:55)…展望台(15:15)

## ★大霧山(12月1日)

参加者 会員(障害者2名、健常者5名)

今日は、関東南部は雲が多い予報だが、埼玉県は晴れ時々曇りの予報だ。小川町が近づく頃には、きれいに晴れてきた。



みかん直売所で足が止る

先月の台風による大雨被害のため、バスは皆谷までで白石車庫までは行かない。そのため、

橋場からほぼ往復するコースに変更した。

橋場で下車するが、まだ寒い。それでも歩きはじめればすぐに暖かくなるので、ダウンもフリースも脱いで出発する。



紅葉したカエデがきれい

しばらく車道を歩き、途中で山道に入る。そしてまた車道に出る。きれいに紅葉したカエデの木がある。さらに行くと、ミカン直売所がある。Sさんがゆずを買ってみんなに振る舞ってくださる。

大きな銀杏の木のあるところで、左に折れてさらにコンクリートの道を登っていく。次第に高度が上がってくる。車道に飛び出し、少し行くと粥新田峠だ。大霧山方面の登山道は、立ち入り禁止になっている。台風の影響でこの付近の登山道・ハイキング道はすべて立ち入り禁止になっている。安全確認が終わっていないからだろう。しかし、ヤマレコのレポで、山頂までは問題ないことを確認していたので、東屋で休憩した後、出発する。



最初は少し急坂だったが、山頂が近づくと平坦になってくる。そして最後の一登りで山頂に着く。山頂からは、すばらしい展望が広がる。正面に両神山、その両側には八ヶ岳の赤岳と蓼科山の山頂部が見える。左手奥には甲武信ヶ岳が見え、奥秩父の山が連なり、雲取山も見える。さらに左端には武甲山が見えている。両神山の右手には、二子山が見え、その右には、浅間山が見えている。さらに右には四阿屋山や白砂山など志賀高原の山が見え、さらに右手には、雪を抱いた谷川連峰が見える。その右には燧ヶ岳があり、右端には日光の山々が見えている。標高がわずか767mの山とは思えない大展望を満喫できた。

昼食後、写真を撮って山頂を後にする。粥新田峠まで戻り、車道を少し戻ってから、左手に行く。ずっと車道だが、しばらく行くと、牧場に出て、すばらしい展望をもう一度楽しめた。バイクのツーリングやドライブを楽しむ人たちが多く、帰りの車道は車などに要注意だ。下

っていくと、笠山や堂平山が見え、右手には登ってきた大霧山が見えてきた。



朝登った車道に合流し、橋場を下る。予定より1時間ほど早いバスに乗って、小川町に向かった。  
記：網干



#### 《参加者の感想》

眺望がよいと聞いていたので、晴れを願っての参加でした。早朝は雲がありましたが、徐々に好天になりました。

台風の影響でバスが終点まで行かない、と聞いていたので、登山道も荒れているのかと少し不安でしたが、なんの問題もなく、殆ど登山者にも会わない、静かな山を歩きました。

歩き始めは、ミカン畑を抜けました。よく実っていて、冬らしい低い日差しをうけて光っているように見えました。道路側に落ちていた一個、息子は美味しそうに食べていました。

息を切らし気味に頂上に到着すると、あまりにも山々がよく見えて、どこから見て何に感動してよいか分からないくらい…貸しきりの頂上で贅沢なランチタイムでした。

遠くの名峰の静かな佇まいが見られる最高の眺望でした。



## ★景信山(12月8日)

参加者 会員(障害者4名、健常者12名)

今日は、2019年最後の山行。忘年山行ということで、登山終了後は忘年会に突入する。しかし、その前に、山頂で餅つきの楽しみもある。



事前に計画していた小下沢からの林道は、台風の影響でまだ通ることができない。小仏から小仏峠への道も通行できない状況のため、今回は小仏から景信山山頂を往復するだけとする。

直前に風邪を引いて参加できなくなったKRさんに代って、バス停に着くと、Iさんが待っていてくれた。これで、忘年会のキャンセル

「みかん直売所」の看板に騙されて?購入となった柚子のお裾分けと、ズボンや靴についた大量の小さな実は、楽しかった一日の笑みがこぼれるお土産です。ありがとうございました。

記:F.Iさん

## コースタイム

橋場(9:50)…粥新田峠(11:05-11:15)…大霧山(11:55-12:45)…粥新田峠(13:15)…橋場(14:40)

がなくなり、とても助かった。

小学2年生から中学生の頃まで参加していたYちゃんが今回は参加だ。M君やMさんと共に平均年齢を下げている。



小仏では、今年の最多参加賞Nさんと、精勤賞KDさん、SKさんの表彰をして出発する。

日陰は寒いが思ったほどではない。中央高速を走る車の音がうるさいが、きれいに紅葉した木も楽しませてくれる。

車道をジグザグに登ると登山道が現れる。まずは急な階段を登る。この最初の登山道が一番急なところだ。順調に登っていくと、平坦地に出る。雑木林になってとても明るい。さらに歩くと、きれいに紅葉したカエデでもあった。傾斜も落ちて緩い登りになる。

一登りで、山頂下の平坦地に着く。ここから山頂直下の登りだ。YちゃんもFさんのサポー

トをしている。

大勢の人で賑わう山頂に着くと、すぐに景信茶屋に行く。10分ほど遅れたので、心配していたようだ。もう餅が炊き上がっていたのだろう。すぐに私たちの予約場所に餅を持ってきてくれる。



餅つきが始まる

まずは、餅を潰す作業にかかる。続いて、交代で餅をつく。全盲のFさんもASさんも餅をつく。M君も餅をつく。通りかかった男の子が、餅をつきたいというので、ついてもらうことにする。



小豆やきなこなどで餅を味わう

餅をついている間に、女性陣は小豆やきなこ、おろしなどを準備してくれる。つきたての餅をいろいろな材料を楽しみながら食べることができた。数年前は餅がかなり余ったが、今回はその時より人数が多いので、余らないと思ったが、少し余ってしまった。きなこ餅にしてOさんに持ち帰っていただく。

山頂で集合写真を撮った後は、登ってきた道を引き返す。あまり早く下ると、まだ忘年会の会場には入れないと思い、ゆっくりゆっくり下

っていく。何十年ぶりだろうか、しりとり歌合戦も始まった。山歩きをしながらしりとり歌合戦をしたのは初めてではないだろうか？

小仏のバス停には、15時前に着いた。すぐ15時発のバスがある。日陰になっている小仏で待つのは寒いので、すぐに乗り込むことにする。



景信山山頂にて

高尾駅でバスを降り、忘年会会場に行ってみると、予定より1時間近くも早いが入って良いと言ってもらえる。料理などもすぐに来て、忘年会が早く始まった。何よりも、今年も1年、全員無事に過ごせたことが一番です。今年1年、お世話になりました。記：網干



景信山山頂からの富士山

#### 《参加者の感想》

景信山は、晩秋の山歩きを楽しむにはピッタリでした。紅葉した山や丘陵に陽があたり、美しかったです。

たくさんの登山客で賑わう山頂で餅つきをして、つきたてのお餅をいただいて、関東平野を一望し、歌のしりとりをしながらの下山…この一年もいろいろあったけれど、楽しく終わっ

て良かったなあ、と思いました。忘年会も笑顔と笑い声に包まれた楽しい時間でした。新しい年はさらに良い年になりますように。ありがとうございました。記：F.Iさん

## ★葛城山・発端丈山(1月12日)

参加者 会員(障害者3名、健常者8名)

今回の3連休は、真ん中の日曜日だけ雨の予報だった。しかし、直前で曇りの予報になり、富士山は期待できないけど、予定通り実施することにした。

東京付近はスッキリ晴れていたが、三島に着くと完全な曇り空になっていた。田京駅から葛城山に登る人は少なく、田京駅で降りた登山者は我々だけだった。

まずは車道を歩く。踏切を渡ると、左手にこれから向かう葛城山と岩登りのグレンデとして有名な城山が見える。葛城山には、ゴンドラの鉄塔が見えていた。



葛城山を見ながら歩く

狩野川にかかる大門橋を渡る。そこから左手に折れて、狩野川の畔を少し歩く。村祭りだろうか、太鼓をたたきながら歩く人たちが見える。私たちがその方向に歩いて行く。

みかん園の入口で、村祭りの人たちに追いつく。風もなく汗ばむくらいなので、防寒着を脱

## コースタイム

小仏(10:05) …景信山(11:40-13:10) …

小仏(14:50)

ぐ。ここから先もまだ舗装されている道を登る。



みかん園の横を登る

登っていくと地元の人が声をかけてくれた。今日は、みんなが仕事をしている見張り役とのこと。そのまま通り過ぎたが、IさんとSさんが、その方から一人2個ずつミカンをもらってきてくれた。後でいただいたミカンは、とてもおいしかった。

尾根の上に上がると、ミカン畑が見下ろせるようになり、箱根方面も見えるようになった。まだ舗装道路は続くが、そこから葛城山を巻くようになる。



駿河湾が見えてきた

道路の両脇にはスイセンが咲いている。葉を落とした木々には、ウソが飛び交っていた。少し行くと、ゴンドラの下を通過する。乗ってい

る人は少ないが、ゴンドラはたくさん動いている。

葛城山への最初の登山口に着いたが、急に見えたこともあり、もっと先に行こうということになる。少し先に、もう一つの登山口があった。そこを登るが、地図では、さっきの道より、山頂に近いが、傾斜は急だ。みんながんばって登っていく。



葛城山山頂で昼食タイム

ジグザグに登っていくと、稜線が近づいてくる。足がつったり、足を滑らせたりすす人がいて、いろいろあったが稜線に到着する。ここは、もう山道ではない。ゴンドラで上がってきた人たちが大勢歩いている。私たちは、まず山頂を目指す。山頂にはすぐに着いた。



葛城山山頂にて

山頂で昼食タイムとする。山頂からは、箱根の神山、駒ヶ岳や、沼津アルプス、愛鷹山、天城山などが見えていたが、富士山は裾野がわずかに見えるだけで、山の姿は見えなかった。

山頂で集合写真を撮った後、隣のピークに向かう。ここは、恋人の聖地になっていた。さっきから鳴っていた鐘は、ここにある鐘だった。

YAMAP の地図では、ここから発端丈山に向かう道が書かれているが、どうみても道はない。引き返すことにする。引き返す途中にも登山道が書かれているが、ここにもやはり道はなかった。下の舗装道路まで戻ることにする。

舗装道路をしばらく歩くと、発端丈山の登山口があった。そこを登り、益山寺への分岐で右に進路を取る。この頃、少し雨を感じるようになる。しかし、かすかに感じる程度で雨具は不要だった。



ウソの雄と雌

最後に階段状の所を登ると、発端丈山の山頂に着く。目の前に駿河湾が広がり、すばらしい展望だ。以前はこんなに見えなかったが、木を切って展望をよくしたようだ。展望が良いのはありがたいが、やはり山は自然のままの方が本来の姿で良いのだが。



箱根の神山と駒ヶ岳が見える

発端丈山からは、急坂の下りとなる。すでに予定時間はかなりオーバーしているが、慎重に下る。傾斜も落ちたところで、道が分かれるが、ロープの張られている方を避け、傾斜が緩そうな方の下りすることにする。こちらは、駅から遠い



ため、バスの時間が早いですが、歩きやすい方を選択して間違いなかったようだ。長浜のバス停に計画より約 1 時間遅れで到着する。バスもちょうど 1 時間遅れ。計画を作った私が行き先を間違っていたようで、三島行きのバスはなく、沼津駅行きのバスに乗る。

バスの車窓から、日が落ちた黄昏の駿河湾が見えていた。オレンジ色の空は美しい。明日は

## ★鷹取山(12月6日)

参加者 会員(障害者 1 名、健常者 7 名)

山に行く前は、いつも天気予報とにらめっこ。今回は、朝のうち雪が降る可能性はあるものの、9時頃には止んでいるだろうと思い、予定通り実施することにする。しかし、当日、家を出るときは、本降りの雨が降っている。Sさん親子からキャンセルの連絡が入る。パソコンで予報を確認し、登山口に着く頃には止んでいると判断し、雨具を付けて家を出る。

上野原駅で降りる頃には雨は止んでいた。そして、Sさん以外は、全員集合している。みんな行動中は曇り空と読んで来たようだ。バスに乗って沢井入口に向かう。



バスを降り、出発しようとする、細かな雪がほんの少し舞ってきた。しかし、それもすぐになくなり、雨の準備はしないで出発する。

登山道はいきなりの急登となる。ただそれほ

きっと晴れるだろう。

記：網干

## コースタイム

田京駅(10:00) …みかん園(10:35-10:40)  
…葛城山(12:10-12:45) …益山寺分岐  
(14:35-14:40) …発端丈山(15:05-15:15) …長浜(16:45)

ど長くはなく、一旦傾斜が落ちる。しかし、もう一度急坂がまっていた。登るにつれて、登山道に薄く雪が積もるようになる。木々の枝にも少し積もっている。久しぶりの雪景色だ。



雪景色を楽しみながら登っていくと、すぐに鷹取山に到着する。山頂には、酸素ポンペを二つに切ってぶら下げたような鐘がある。木片で鳴らすようになっていたので、おのこの鳴らしてみる。



山頂からは、雪景色となった生藤山と陣馬山が見える。木の間から扇山も見えていた。雲は

厚く、さすがに富士山は見えなかった。

山頂からの下りも傾斜が急で滑りやすい。慎重に下る。今回のコースは、枝道がかなり多い。間違わないように GPS で確認しながら進む。それでも地図にない道もあり、間違っ引き返すこともあった。



次のピークの小淵山で昼食タイムとする。ここはベンチなどが無いので、落ち葉の上にシートなどを敷いてお昼を食べる。ここまで他の登山者に一人も会わなかったが、小淵山を出発しようとしたとき、3人パーティーが登ってきた。この人たちが、今回途中で出会った唯一のパーティーだった。

小淵山からの下りは、滑りやすい岩場があった。ロープも張られている。しかし、みんな無事に通過する。今回のコースは、標高が低く、標高差もそれほど出ないが、急坂が多いようだ。

次のピークは岩戸山だった。岩戸山は丹沢方面の展望が良い。雪景色の蛭ヶ岳方面や大室山が見えた。そこから少し行くと、伐採されたと

ころに出た。そこからの眺めは岩戸山の山頂以上に丹沢方面の展望が良かった。



この付近からは、中央高速を走る車の音を聞きながら歩く。右下に藤野駅が見えるところもあった。最後そのまま駅に向かおうとしたら、「神社に寄らないんですか？」という声が聞こえる。神社に参拝したい人だけでいくことにする。私のように神頼みしない人はそのまま下っていく。藤野駅から見える名物のラブレターや大室山を見ながら下り、中央高速の下を通過して藤野駅に向かう。藤野駅で登山靴の泥を落とし、予定より1本早い電車に乗り込む。おかげで、大相撲千秋楽の徳勝龍と貴景勝の一番を見ることができた。 記：網干

### コースタイム

沢井入口(9:40) … 鷹取山(10:20-10:35) …  
小淵山(11:30-12:00) … 岩戸山(12:35-12:45) … 藤野駅(13:30)

### ★天狗岳(2月8日～9日)

参加者 会員(障害者2名、健常者4名)

#### ☆2月8日

今朝の関東地方はすばらしい天気恵まれた。しかし、冬型気圧配置が強いときは、八ヶ岳も雲に包まれるため、天気は良くないだろう

とっていたが、案の定、あずさの車窓から見える八ヶ岳は雲に包まれている。

茅野駅からバスに乗り込み、渋ノ湯に向かう。道路の周囲には全く雪はなかったが、渋ノ湯が近づくと少しだけ雪が見られるようになる。

渋ノ湯でバスを降り、出発準備をする。視覚障害者と滑ることが心配な人は、ここでアイゼンを付ける。氷った車道を上がり、登山届を出

してから登山道に入る。登山道に入るとそこからは雪道となった。

順調に登っていたが、Yさんが遅れていると聞く。いつも元気なYさんがどうしたのだろうと思い、パノラマコースの分岐にザックを置いて少し引き返してみる。貧血を起こしているとのことだったが、たぶんシャリバテで低血糖を起こしているのだろう。分岐で昼食タイムとする。



パノラマコース合流点で

腹に入れたら、すっかり元気になった。しかし、今度はNさんが心臓が痛いという。ドクドク言っているとのこと。休んでいると痛くないが登り始めると痛むようだ。少し登っていても収まる様子はなく、足もつたので、小屋まで行くのも難しいと思い、ここから引き換えしてもらふことにする。Kさんが一緒に下って、また登り返してくると頼もしいことを言ってくれたが、それは大変なので、Sさんが一緒に引き返すことにすると伝えてくださる。それに甘えさせてもらって、二人で下山してもらうことにする。

途中で少し登りがあるので、体調がさらに悪化しないか心配だったが、翌日、無事に下山できたことを確認できた。

6人から4人になったメンバーは、緩やかな登りをがんばって、黒百合ヒュッテまで行く。この頃には、雲も薄くなり、日も差すようになっていた。

ヒュッテに入り、いつもの懇親会が始まる。最初はストーブの周りで、食事後は山形の3人

組や単独できた女性と歌や話で盛り上がった。



黒百合ヒュッテに到着

☆2月9日

夜11時頃と3時頃に外に出てみると、霧に包まれて何も見えない。細かな雪も降っていたようだ。



出発前の気温は  
氷点下17°C

朝になって外を見ると、薄く雪が積もっていた。6時頃、外に出て小屋前の温度計を見てみると氷点下17.5°Cだった。6時半からの朝食を摂り、予定より35分遅れの7時35分に出発する。7時頃の気温は氷点下17°C。風はこの付近ではほとんどない。霧も薄くなり、青空も見えるようになってきた。



東天狗岳と西天狗岳に向けて登る

中山峠まで行き、そこから東天狗岳に向けた登りが始まる。昨日、渋ノ湯から登り始めてすぐカメラのバッテリーがなくなった。充電したばかりだと思っていたが、どうも充電し忘れていたようだ。そのため、ビデオカメラで写真を撮っていたが、今日はビデオカメラもバッテリーがないと表示されている。今朝、新しいバッテリーに変えたばかりだが、ビデオカメラも使えなくなった。低温すぎて、すぐにバッテリーがなくなるのだらうと思っていた。そのため、スマホで撮ることにした。



少し登ると正面に東天狗と西天狗がよく見えるようになる。純白の山の美しさは、夏山の比ではない。真っ青な空とのコントラストがより一層、山を引き立てる。

針葉樹林帯から低木の樹林帯に、そして森林限界の上に出る。樹氷の木々が美しい。しかし、森林限界に出ると、強い風が吹き荒れている。



急な岩と雪のミックステルを登ると、山頂に立つ人たちが見えるようになる。山頂に着くと、ここもすごい風が吹いている。とてもゆっくり

はできない。私のスマホは、もうバッテリーがなくなっていたようで、画面が出てこない。Kさんに写真をお願いするが、Kさんのスマホもバッテリー切れのようで写せない。Fさんがカメラを出して撮ってくれる。ありがたいが、メールで送ってもらわないと、ホームページに掲載できない。それでも、集合写真を撮って、すぐに西天狗岳に向かうことにする。この下りも、北西風を正面に受けるため、寒さに震えながらの下りとなる。



東天狗と西天狗の最低コルから少し登ったところで、風がとても弱くなる。西天狗の影になったからだろう。ここで休憩することにする。北岳、甲斐駒ヶ岳、仙丈岳がよく見える。北アルプスも雲間から槍穂高連峰などが見えていた。北アルプスも今日はますますの天気ようだ。



西天狗までは一登り。西天狗岳も強風だと思っていたが、意外にも風は弱い。東天狗は、北西側が開けていて、すり鉢状になっているため風が集まるのだらう。それと、山頂が狭く、吹

き上げか風がそのまま山頂に当たるため、人は強風をまともに受けることになる。それに比べて西天狗は、すり鉢の端にあるため、風が集まることはなく、また山頂が広いため、止まぬぶつかった風が山頂よりも高いところに舞い上がり、山頂はエアポケットのように風下になるのだと思われる。



ハヶ岳南部の山々

山頂から、硫黄岳から赤岳、阿弥陀岳がよく見え、南アルプス北部の山々や、中央アルプスもよく見えた。北八つの北部は、蓼科山や北横岳が雲の中だったが、中山などはよく見えた。隣の東天狗は、もちろんよく見える。



北岳・甲斐駒ヶ岳、仙丈岳

大展望を楽しんだ後は、唐沢鉱泉側に下山にかかる。ここは正面から風が当たるため、顔が冷たい。Fさんはここで凍傷になってしまったようだ。右の頬が腫れて液体が染み出ている。

樹林帯に入ると風はほとんどなくなり、ホッとすする。少し休憩して、ぐんぐん下っていく。ここは天狗岳の西尾根になるが、第二展望台、第一展望台と過ぎ、唐沢鉱泉へと下っていく。唐沢鉱泉は、立派な温泉宿で山小屋ではなかつ

た。この気温を確認すると氷点下4℃だった。気温は低いが、日当たりもあり、日に当たっていると温かく感じる。



岩と雪のミックステルを下る

私は、唐沢鉱泉でアイゼンを外したが、ここからの登りが最も氷っていて、滑りやすかった。滑りにくいところを探したりしながら、滑らないように慎重に登っていく。パノラマコースの分岐を過ぎ、緩やかな道を下っていくと渋ノ湯への車道に出た。ここで装備を外し、バス停に行く。大勢並んでいたが、バスは2台来てくれて、余裕で座って帰れた。

バスの車窓から、昨年登った蓼科山がきれいに見えていた。記：網干



積雪表面の結晶

#### 《参加者の感想》

泊りがけの冬山登山に参加。今回のルートは初めてだったので、楽しみにしていました。

本番の2日目ですが、朝出発時は何とマイナス17℃、極寒の空気でした。峠を越えて山頂への上りは北風が強く、飛ばされそうでしたが、一步一步慎重に登りました。山頂は寒すぎて、手足が痛い程冷たかったです。天気は良かった

ので、周りの山々の見晴らしは良かったです。しかし、下山後、頬と手先の一部が凍傷しているのに気づき、冬山の厳しさを実感した山行になりました。次回は防寒対策をしっかりとしたいと思います。 記：H.Kさん

## コースタイム

2/8 渋ノ湯(11:45) …パノラマコース分岐

## ★シダンゴ山(2月23日)

参加者 会員(障害者3名、健常者9名)

今日はすばらしい好天に恵まれた。小田急の車窓から、真っ白な富士山が望まれた。コロナウィルスの心配があるので、私たちもマスクを使用している。私は消毒液も持ってきた。しかし、今回はコロナウィルスだけでなく、スギ花粉も「非常に多い」という予報になっている。

新松田で下車し、全員集合して、バスに乗り、田代向で下車する。ここから車道を歩き、橋を渡って舗装された道を登っていく。この付近の梅の花は満開だ。細い舗装道路を上っていくと、茶畑がある。満開の梅とのコラボがなかなか良い感じだ。



茶畑と梅の横を歩く

舗装道路が終わり、山道へと入っていく。まずは宮地山への登りだ。やや急坂もあるが、危険なところはなく、順調に登っていく。恐怖の

(12:45-13:10) …黒百合ヒュッテ  
(14:50)

2/9 黒百合ヒュッテ(7:35) …東天狗岳  
(8:45-8:55) …西天狗岳(9:30-  
9:45) …西尾根分岐(11:40-12:05)  
…唐沢鉱泉(12:45-13:00) …渋ノ湯  
(14:10)

杉は、多くの花を付けて待っている。一度くしゃみが出ると続いてしまう。



田だまりの山道を登る

傾斜が落ちると宮地山の山頂に着く。展望はない。日当たりの良い所で休憩する。ここから、一旦下りとなるが、その後はまた登りとなる。登り着いたところには、タコチバ山という標識があった。ここから、緩やかな下りとなる。



シダンゴ山山頂で昼食タイム

鉄塔の建つ広場にベンチが用意されている。ここで休憩し、ここから舗装された道を緩やかに登っていく。舗装されてあたりされてなかったりの林道だ。シダンゴ山の登りとなるコル

まで林道は続いている。コルから、シダンゴ山への最後の登りだ。

途中で男坂と女坂に別れている。「どちらにしますか？」と聞いたら、男性から「女坂」とすぐに回答があった。女坂は、傾斜は緩いが、山腹をトラバースしているため、一カ所、注意するところがあった。



アセビの木が出てくると、すぐそこに山頂があった。山頂には大勢の登山者がいた。子どもたちも遊んでいる。みんな寄から登ってきたのだろう。山頂からは、丹沢の表尾根や鍋割山、雨山峠の向こうに蛭ヶ岳などが見えていた。山

頂一帯には多くのアセビが植えられている。まだ花の季節ではないが、1本だけ満開の木があった。高松山方面の山腹の影に真っ白な富士山が控えめに見えていた。時折、強い風が吹くが、座っていると、それほど寒く感じずに済んだ。

山頂からは寄のバス停に向かって下っていく。段差の大きいところが多く、少し歩きにくい。それでも、順調に下っていく。途中にあったトイレで用を済ませる。

車道におり、中津川に架かる橋を渡ると、車道沿いに河津桜が咲いている。五分咲き程度だろうか？ピンクが鮮やかだ。

バスの本数が少なく、1時間以上待つと思ったが、10分も待たずに、すぐにバスが来た。暖かなバスの中で、いつしか眠りに落ちていた。

記：網干

## コースタイム

田代向(9:35)…宮地山(10:35-10:45)…シダンゴ山(12:15-12:55)…寄(14:05)

## ハイキング報告

### ★第58回ふれあいハイキング（昭和の森）（11月17日）

参加者 会員(障害者1名、健常者7名)

ったが、昭和の森などを案内してもらえたらありがたいと思った。

もう昭和も遠くなってしまいましたが、そのこととは何の関係もなく、千葉市緑区にある昭和の森を計画しました。先週の櫛形山と同様に、今日もすばらしい天気にも恵まれました。

土気駅に着き、歩きは始める前に、土気に住むOさんに電話して、もし都合が付いたら顔を出していただきたい旨を伝える。Oさんも、設立間もない頃、山仲間アルプの賛助会員だった方だ。今回は、Oさんを知る人が誰もいなか



駅を後にして、昭和の森に向かって歩いていると、Oさんが現れたではないか。早速みなさ

んに紹介して、案内していただく。

まずは太陽の広場を歩く。広い芝生の空間は、開放感があって素晴らしい。続いて冒険広場に行く。みんな童心に返っていろんな遊具に挑戦する。Oさんが、ひょうひょうと成功させるのには驚いた。最後は、長いローラー滑り台。ここは、IさんとSさんが滑って降りてきた。



左から右に行くのが難しい

ISさん親子が遅れてくるので、展望台で待ち合わせることにする。まだ時間があるので、湿性植物園を見ることにする。湿地に木道が付けられている。カタクリや花菖蒲が咲くようだ。今回は、さすがに花はなかった。湿性植物園の先には、下夕田池（シモンタイケ）がある。ここも6月にはスイレンが咲くようだ。

池を見た後は、お花見広場を通過して、ISさん親子が待つ展望台に向かう。



展望台にて

展望台で、元気なIさん親子と合流する。そして少し早いけど、昼食タイムとする。展望台は、千葉市で最も標高の高いところらしく、101mの標高があるらしい。見晴らしも良く、九十九里浜とその向こうに太平洋も見えてい

た。

展望台から大網駅へは、この周辺をよく知るOさんが、のどかな田園風景の広がるコースを地図に書いてくれた。ご両親の介護をするOさんとはここでお別れとなる。Oさんからも楽しかったと言ってもらえて、とてもうれしかった。



童心に返ってローラー滑り台を楽しむ

昼食後は、小中池に向かう。通行禁止になっているが、歩けそうなので行ってみる。先日の大雨で発生した土砂崩れの後などがあったが、歩道はもうきれいに整備されていた。しかし、大雨の傷跡は、今回、至る所で見られた。

小中池は、「こなかいけ」と読むとOさんに教わった。池の周りの遊歩道も通行止めになっている。池には、多くの鯉がいる。ミシシippアカミミガメも泳いでいる。オオバン3羽が近づいてきた。遠くには、マガモなど、多くのカモ類がいた。MI君は、カモが好きなので、今回は多くの収穫があったのでは？



ウラナミシジミ

小中池からOさんのお勧めのルートを歩く。民家の庭の木の实などを見て楽しみ、手彫りのトンネルを抜ける。まだ、こんなところがある



のだと驚く。

田園や里山の風景が広がるのどかな所を歩く。シジミチョウやモンシロチョウの仲間が舞い、モズの高鳴きが聞こえる。たんぼの稲は刈り取りされないままになっている。実の付きが良くないのだろうか？

通り過ぎていく外房線の電車が見えるようになると、大網駅は近い。電車を1本見送り、予定通りの電車で帰途についた。小春日和の1日をのんびり楽しむことができました。

記：網干

《参加者の感想》

昭和の森にある、千葉市の最高地点からの展望

が素晴らしかったです。九十九里までまっ平！天候も良く、開放感を味わえました。長いローラー滑り台で一気に下ったのは、最高でした♪大人が次々と滑ってくるのは、滑稽な光景だったと、後から思いだすと笑えます。千葉市から大網白里市に入ると雰囲気はがらりと変わり、日本の里山風景を満喫しました。からすうりをお土産に持ち帰ってきました。『ぶらり旅』的な秋のハイキングでした。 記：F.Iさん

コースタイム

土気駅(9:05)…昭和の森入口(9:35)…展望台(10:50-11:50)…大網駅(13:15)

2月16日の猿島は、雨予報のため中止しました。

## その他活動報告

### ◎臨時総会開催

令和2年1月25日に、来年度の活動計画を決める臨時総会を開催しました。活動計画は、

議案通りに承認されました。

## 各種連絡事項

### ▲第17回全国視覚障害者交流登山大分大会について

今年の9月19日(土)～21日(月)にかけて全国視覚障害者交流登山大会が大分県で開催されます。別途案内を送付しますので、ぜひ

ひご参加ください。なお、交流登山は、今回が最後となる可能性が大きい状況です。

## 会員情報

### ●退会のお知らせ

残念ですが、11月以降、下記の方が退会されました。(敬称略)  
吉岡十九二

## 編集後記

### ・会長のつぶやき

昨年、大きな自然災害があり、今年になってからは新型コロナウィスの感染拡大が続い

ている状況で、なかなか落ち着いて日常生活を送れない状況になっています。

今年になって徐々に広がった新型コロナウイルスは、2月下旬になって政府から全国的なスポーツイベントや小中高校の休校要請などが出されました。山仲間アルプでも3月1日の三浦富士を中止としましたが、今後の計画も状況に応じて中止するかどうか検討します。

山の中は、大勢の人と接するわけではないので安全と思われませんが、往復の交通機関で感染の恐れがあります。

みなさまにおかれましても、マスク着用や手洗い、水でのうがいなどを行って、予防に努めてください。そして、来年度もみんなで安全に楽しく登山等を楽しんでいきたいと思いを。

・次回発行予定は、7月頃を予定しています。

参加申し込みやお問い合わせは下記まで  
〒276-0022 千葉県八千代市上高野 1161-1-208  
山仲間アルプ 網干 勝  
TEL.047-484-8308

障害の有無も、年齢も、男女も関係なく、みんなで山を楽しみたいね。  
自然は、誰に対しても平等だよ！！

